

令和5年 二十歳を祝う会



「令和5年 二十歳を祝う会」(主催・妹背牛町)が1月8日、町民会館で開かれ、振り袖や袴、スーツを着た男女が晴れやかな表情で式典に出席し、旧友との再会を喜びました。

昨年4月に成年年齢が18歳に引き下げられたことで、式典の名称を従来の「成人式」から「二十歳を祝う会」に変更。これまで通り20歳を対象とし、2002年4月2日～2003年4月1日までに生まれた対象者24人のうち、22人が出席しました。

晴れ着に身を包んだ男女は、温かい拍手に包まれて式典会場に入場。田中一典町長が「デジタル技術を活用しながら、人とのつながりを大切にするこれからの社会で活躍し、人生に花を咲かせてください」と、贈る言葉を述べました。

名前を呼ばれた男女が一人ずつ、二十歳の抱負や周囲への感謝の気持ちを述べた後、小・中学校の恩師2人がお祝いの言葉を披露。出席者を代表して、川村俊輔さんと鵜飼莉彩さんの2人があいさつしました。

記念写真を撮影した後、出席者たちには小学生の時に埋めたタイムカプセルの中身が配られ、図工の時間に描いた絵など思い出が詰まった「宝物」を懐かしそうに持ち帰りました。



鮮やかな振り袖姿で
式典会場へ→

←二十歳の記念に
ガッツポーズ



長野県の大学に通いながら、1級建築士を目指しています。高校、大学と進学するにつれ、広くて浅い人間関係になりがちですが、故郷の妹背牛に帰省して改めて思うことは、人の温かさや懐の深さです。ですから、「二十歳を祝う会」の式典会場で同級生と久しぶりの再会を果たしても、クラスメートだった時のように気兼ねなく接しました。そのおかげで、食事会の幹事を引き受けることになりましたが（笑）

かわかみ
川上
しょうま
翔真さん



建築士の夢に向かって “自分らしさ” を大切に

建築士を目指すきっかけは、周りの友だちが進路について考え始めた中学2年生のころ。おしゃれな家や庭を見るのが好きだった私は「自分で設計できたら面白そう」と、建築士になるための勉強に時間を費やしました。

苦手だった数学は、建築士にとって必要な科目。克服するために、滝川高校の理数科に進学しました。

現在は、長野県にある信州大学工学部の2年生。将来の目標は建築士として働いて自分の会社を持ち、育ててくれた両親の家を建てることです。

建築士に向けた勉強のほか、音楽活動にも打ち込んでいます。小学6年生からピアノ、中学生になるとサックスも始めた経験から、大学では軽音楽部とジャズ研究会に所属しています。

お客様のニーズに合わせて設計図を書く建築士も、アドリブで演奏するサックスも、個性が尊重されるクリエイティブな世界。「自分らしさ」を目標に掲げ、これからの人生を大切に歩んでいきたいです。



代表のあいさつを述べる
鵜飼さん（左）と川村さん

式典の出席者を代表して、川村俊輔さんと鵜飼莉彩さんの2人が「社会人として多くの権利を得たと同時に義務と責任を追うことになりました。社会の一員として守るべき秩序を自覚し、思いやりの気持ちや責任の持てる大人になることを誓います」と述べました。



名前を呼ばれた出席者たちは一人ずつ登壇し、自己紹介を交えて二十歳の抱負を述べました。故郷・妹背牛での思い出や支えてくれた周囲の人たちへの感謝、将来の目標などを語り、決意を新たにしました。